

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL<0762>52-2271 FAX52-2273

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL<0762>22-2525 FAX24-2882

会長：鈴木 透 幹事：坂下 直人

情報委員長：磯野 洋明

1991年3月7日 第434号

「よりよい環境を目指して」

金沢市保健公害部環境保全課課長

安江 博志氏



日頃より私共が言っている事を少しお話ししてみたいな、と思います。

金沢の自然環境は、その地形が非常に変化に富んで居り、連なる山々より流れ下る「犀川・浅ノ川」が二つの台地をはさんで静かに光り、温暖で、四季おりおりの移り変りがはっきりとして居ります。南からと北からの動・植物の生息分布の混ざり合った接点の地が、この一帯とも言えるわけで、多種各種に渡っての自然環境となって居ります。

その一例として、昔からの木、すなわち「タブ」「シイ」の木も残っているし、「モリアオガエル」が金沢城内、石浦寺社境内に生息しています。又、県庁内敷地には狸がいる位です。

この事からみても、結果として乱開発を、あまりあせる事無く、ゆっくりと大きなリズムでの金沢人特有の知恵が、環境の破壊を急激に起こさず、自然の恵みが沢山残っているとも言えるのです。しかし、二十一世紀に向けての新しい街づくりを目指す事も大切です。

私共は二年前に「都市景観条例」を制定しました。土地利用を将来に亘って 善く、正しくする為です。専門家の方や多数の市民の人々による「ふる里の自然環境懇談会」を一昨年、昨年と二年度に亘り作りました。そして、「金沢の自然の保全」や「活用の有り方」について論議を重ねましたが、その一部をお話ししましょう。

1. 学校や職場・会社で、シンボル樹を植樹する。
2. 「ドングリ」等を植木鉢で育て、それを公園等広い場所に移植する。
3. 休耕田を利活用して、水生動物を育てる。
4. 自然の様子と、それへの保全のボランティアへの体制づくり。
5. 同じ木を唯並べるだけの街路樹より、金沢に昔からある木や、又、実の成る木を植える。

などと、活発なる御意見が沢山有りました。早速に私共は自然環境事業の一つとして、来年度は休耕田利用の「八丁トンボ」の生育を実行したいなあと考えて居ります。又、市民の皆さんの多数参加による「身近な自然を知る調査」とか、「身近な自然探訪コースの設定」とかを、児童、お年寄りも沢山参加出来る事業として、引きつづきずっと続けたいなあと願ひ、関心、意見、御批判がより多く出、より自然を知って欲しいなあと思います。

一金沢北RC例会講話より（文責 長谷人塑人）

都市連合会に出席して

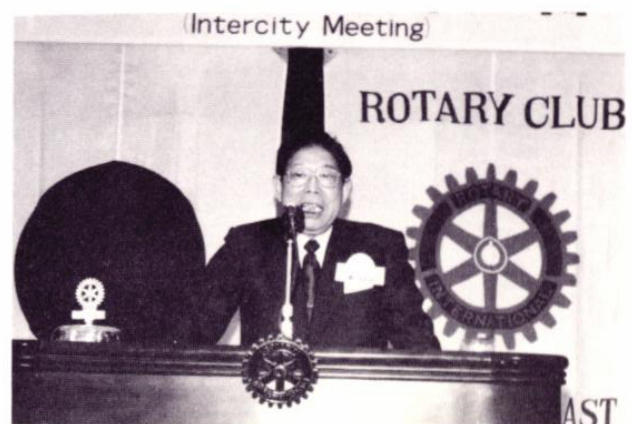
幹事 坂下 直人

1990～91年度石川第一第二分区都市連合会が金沢東ロータリークラブのホストで、2月24日スカイホテルでロータリーを愛する「ロータリアンの集い、ロータリーを高めよう本音で語る会」のテーマで開会されました。当クラブから21名の出席で、一日本音の勉強会となりました。まず都市連合会について、標準ロータリークラブ定款第7条a項の3に、正式に公表されたロータリークラブの都市連合会（インターシティーミーティング＝略I.M）に出席することが規定されています。従来通例I.GF（インターシティーゼネラルホーラム）を意味するようには取られているが、単にこれだけではありません。講演会方式（ラウンドテーブルコンفرنス）、自由談話方式（フリートーク）、円卓会議方式（ラウンドテーブル・コンفرنス）、陪審討議方式（パネルディスカッション）等であっても差し支えない。勿論、一般討論会（ゼネラルホーラム）は望ましいところであり、要は開催がロータリーの命題をもつ都市連合会（I.M）でなくてはならないのです。

江守第二分区代理の点鐘で初まり、従来の雑壇もなくスッキリした会場で、ホストクラブの御苦心がうかがえました。3分科会にわかれて本音で語る会となりました。第一分科会は入会2年未満の新会員の勉強の場となり、第二分科会は「地球環境保全にロータリーは何が出来るか」で、当クラブの越野会員のリーダーが進められ、白熱した討議がなされたようですが、何かの機会にクラブで発表していただければと思います。第三分科会は「ロータリーの各種会議、大会はこれでいいのか」で、会長幹事、パスト会長、役員理事等々の出席義務者となり出席しました。話の大半が地区大会の賛否で終始した感もありました。ホストクラブの気くばりの大変な事や、出席義務者に対する幹事の心くばりのむずかしさなど、本音のとびかう会となりました。特筆は、地区大会の会費の高い事。おみやげの良し悪しなど、各クラブの本音をガバナーにブツケた感がありました。

講演会「国際理解と親善」国際ビジネスコンサルタント、田村定彦氏のお話は、親善のむずかしさの中に、笑いあり、うなずき納得の一時間でしたが、在米生活35年のキャリアは会場をうならせました。又、マスコミの中に出てこないアメリカの話は、通り一遍では気付かないアメリカの姿を見たおもいでした。83年ウィリアムズバーク先進国サミットで、米政府の依頼で通訳された話などまだまだ多く聞きたい講演会でした。

「余興なしで本音を語る会の延長」と題して懇親会がひらかれ、最後に本音が出た。会員もおられたようでした。



職業奉仕雑感

(株)小河建築設計北陸事務所 吉岡 巖



今回情報委員会より投稿のご依頼があり、タイトルは「私の職業奉仕」又は「わが社の紹介」ということですが、職業奉仕とまではいきませんが（実践してこそ奉仕していると云えるのですが）この機会をよきチャンスとして、日頃思うことを少し綴ってみたいと思います。

上記の通り私の職業分類は建築設計です。職業奉仕とはどんな職業にしる先ずはルールとモラルをまもり、信頼関係を全うすることでなかろうかと思えます。これは、まさに「四つのテスト」であり云うに易く行うに遠大です。士、師のつく職業はプロフェッショナルとして士法、師法という法律をもつ職業で、その社会的使命と責任は噛みしめれば噛みしめる程、空恐しい気がします。私たちの職能は建築基準法、建築士法や協会の憲章などで、最高の機能・安全性・経済性・美観をそなえた建物をクライアントに保障する責任を負うと同時に、都市社会全体に対して人間らしく生きるための環境の提供という責任をも担って行かねばならないとなっています。

この中で社会的問題として何時も悩むことは、環境と景観問題です。建築物がつけられた時、近隣に環境問題を引き越したり、街並みや景観に大きな影響を与える場合があります。都市の保存・開発・創造という命題は、その都度多く語られてきましたが、経済成長と開発の狭間に埋もれ失なわれたものが如何に多いことでしょう。こゝ数年来地球環境問題が取り沙汰され、国によっては夫々の思惑があるようですが、地球を護ろうという行動が高まってきましたが、自然を、人間を大切にしようという気持が必要です。同じことが私たちの住む街にも云えることです。個性ある美しい街を創ることは、その街の市民の知恵であり文化です。東山地区の景観トラスト運動は記憶に新しく、これは市民に大いなる知恵と勇気を与えたと思えます。

幸いに当市は早くから「伝統環境保存条例」が施工され、平成元年4月1日には景観元年として都市景観条例が設けられたことは素晴らしいことと思えます。都市景観問題について官民レベルで熱心に討議検討されてきましたが、それを耳にする度に私たちに課せられた職能と使命に改めて衿を正す思いです。クライアントの求めるものと公共性の境目で街を創造していくことが「私の職業奉仕」と思っています。

幸いに当クラブには金沢を愛し、この道に努力貢献され、見識豊かな清水会員がいらっしやり、氏の御指導をいただきながら努めたいと思います。



吉田富士夫会員画

